

編集後記

早くも2号の締切りとなった。玉稿をお寄せ下さった諸先生に深く謝意を表したい。特に本年、沖縄返還という歴史的転換期を迎えて、本号に祭魚洞文庫の沖縄関係資料の目録を掲載することができたことは欣快にたえない次第である。図書館、高木征三主査の労を多としたい。

本学教員の不断の学問的活動によって本学も、開学8年目にあたかもイタリア・ルネッサンスにおけるように清新潑刺たる知的雰囲気を表示するにいたった。血と素姓という中世支配階級の選択原理に対比して、ルネッサンスの初期資本主義文化の新しい Criteria は富であるとともに知力であった。

手段を目的へ合理的に適合させるブルジョワの「計算の精神」は商人と人文主義者の共通の特性であり、古いギルド的支配から己れを解放する自由な若々しい「企業精神」が知性の世界にも経済の世界にも同時に顕現する（アルフレッド・フォン・マルティン）。まことにアンリ・ピレンヌの評するとおり、経済の世界に姿を現わす精神は、知性の世界を動かすのと同じ自由の精神である。

かくルネッサンスにおいて知性と商業とが密接な関係にあったように、本学における一般教育と専門教育の関係も、両者を実体的に対立させる二分法的思考から脱却して、その有機的連関をはかる機能的思考法へ転換すべき時期にさしかかっているのではなからうか。この成果が研究発表の場である本誌に豊かに結実することを密かに期するのは、ひとり編集子のみの欲張った考えにすぎないであらうか。

こういう地味な知的作業も、本学を流通経済のメッカたらしめると同時にそれを幅広い基礎学科の底辺層によって支える社会科学の殿堂へ発展せしめる一つの incentive になると思うのである。

なお今期は、「日本資本主義と公害問題」と題して東京都公害研究所長、戒能通孝氏による時宜に適ったきわめて有益な御講演と、「スピノザの政治思想」について本学助教授、森尾忠憲氏による傾聴すべき貴重な御報告があったことを付記しておく。

(知念)

流通経済論集 Vol. 7, No. 2 (通巻第23号)

昭和47年9月25日発行

非売品

編集兼発行所

流通経済大学学術研究会
茨城県竜ヶ崎市字平畑120番地
電話 竜ヶ崎 (02976-2) 3251 (代表)
財団法人東京大学出版会
東京都文京区本郷7丁目3番地の1 東大構内
電話 東京 (03-811) 4281

製作所